

研究発表 (5年部会)

児童の思いや意図が膨らむ 表現活動を目指して

名西郡 高川原小学校 清重 智則

1 はじめに

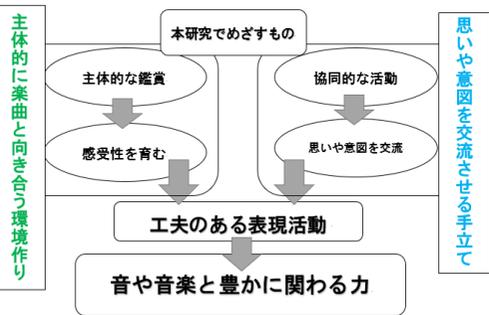
- アンケート結果より

好き・得意

歌唱・リコーダ・オルガンなどの
旋律楽器

苦手・不得手

演奏を聴いて 感受する・味わう
考えや意見を伝える



2 研究内容

(1) 主体的に楽曲と向き合うための環境作り

○ 身体表現

- ① 指揮者になろう
- ② 鏡合わせゲーム

○ ICT機器の活用①

タブレット端末とイヤフォン

2 研究内容

(2) 思いや意図を交流させる手立て

- ICT機器の活用②
分配器の活用
- 総譜の活用
視覚的に気付く
- 協同的な活動
合奏に取り組む
- ふりかえりの活用
～威風堂々の木を育てよう～

3 研究の実際

(1) 主体的に楽曲と向き合うための環境作り

○ 身体表現

① 指揮者になろう

授業の始めと終わりの歌は、
毎時間児童が交代で指揮をする。

3 研究の実際

(1) 主体的に楽曲と向き合うための環境作り

○身体表現

①指揮者になろう

授業の始めと終わりの歌は、
毎時間児童が交代で指揮をする。

かけ声のタイミングや、腕の振り方により強弱や速度が変化する面白さを味わうことができる。

- ・指揮をする児童も適度な緊張感を感じ取ることができた。
- ・歌う側も、指揮に合わせることで、指揮者の意図や思いを感じ取ることができた。

3 研究の実際

(1) 主体的に楽曲と向き合うための環境作り

○身体表現

②鏡合わせゲーム

参考資料「まゆみ先生のパワーアップゲーム29」
緒方まゆみ著 音楽之友社

旋律と伴奏のエネルギーを
「聴くこと」によって、
まとまりを感じ取っていく。

3 研究の実際

(1) 主体的に楽曲と向き合うための環境作り

○身体表現

②鏡合わせゲーム

友だちの感じ取っている音楽を、身体の動きを通じて共有することができる。

- ・言語活動の苦手な児童も、体の動きを介して自分が感じ取っていることを伝え合うことができた。

3 研究内容

(1) 主体的に楽曲と向き合うための環境作り

○ICT機器の活用①

タブレット端末とイヤフォン

- ・各グループにタブレット端末1台
- ・イヤフォンは1人1つ

3 研究の実際

(1) 主体的に楽曲と向き合うための環境作り

○ICTの活用①

<メリット>

- ・聴きたいところをダイレクトに聴くことができる。
- ・何度もくり返し聞くことができる
- ・イヤフォンを着けていても、曲を聴きながら会話ができる。

- ・聴くことに集中し、楽曲と真摯に向き合う姿が見られた。

<デメリット>

- ・音質が良くない
- ・準備に手間と時間がかかる。(音源の編集やタブレットへの取り組み)

3 研究の実際

(2) 思いや意図を交流させる手立て

○ICTの活用②

- ・分配器で音声を共有できるように設置

音楽を形作る要素

音色

強弱

速度

音の重なり

3 研究の実際

(2) 思いや意図を交流させる手立て

ここからもう一度聴きたいわあ。楽器の音が増えたんちゃうん。音が大きくなったでよ。

楽器の種類は何かなあ、確かめたいけんもう一回この辺りから聴こうや。



これは金管楽器の音かな！？

3 研究の実際

(2) 思いや意図を交流させる手立て

○ ICT 機器の活用②

・分配器で音声を共有できるように設置

・イヤフォンをそのまま話し合いができ、他のグループの音の干渉を受けない。

・グループでの話し合い活動が活発になった。

・音楽を形作る要素に着目した意見が出されるようになった。

3 研究の実際

(2) 思いや意図を交流させる手立て

○ 総譜の活用

音楽を形作る要素・音の重なり・強弱・速さなどに着目し、音楽が面白いと感じる理由を探る。



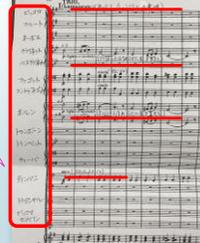
3 研究の実際

(2) 思いや意図を交流させる手立て

イ①冒頭部分

イ②冒頭部分

楽器名や用語は和訳しておく



3 研究の実際 (2) 思いや意図を交流させる手立て



イ①は休みの楽器があるなあ。イ②は全部の楽器が出てきとるんやなあ。

フォルテシモがたくさん書かれてるよ！外国語でいろいろな指示が書かれているね。



3 研究の実際 (2) 思いや意図を交流させる手立て

○ 総譜の活用

音楽を形作る要素・音の重なり・強弱・速さなどに着目し面白いと感じる理由を探る。

音符や記号、作曲者の指示により曲想が変化することに気づく。

・ 楽曲のいろいろな部分を見比べることで、子どもたちの中に新しい気づきが生まれた。

・ 音色や音の重なりによって、曲想が変化することを視覚的に確かめることができた。

3 研究の実際 (2) 思いや意図を交流させる手立て

○協同的な活動



3 研究の実際 (2) 思いや意図を交流させる手立て

○協同的な活動

パートの仲間と思いを膨らませる

- どんな楽器で演奏するのか
- どんな演奏の仕方をするのか

3 研究の実際 (2) 思いや意図を交流させる手立て



徳島アラートのレベルが
下がったので、リコー
ダーの取り扱いも再開し
ました。

四分音符の連続だけど、
音の響かせ方にそれぞれ
ちがいがあるけどどうす
る？叩き方は？



3 研究の実際 (2) 思いや意図を交流させる手立て

○協同的な活動

どんな楽器で演奏するのか
どんな演奏の仕方をするのか

楽器を実際に鳴らしながら、試行錯誤を繰り返す
ことができる。

- 教師からのヒントを頼りに自分たちで選
択していく面白さを感じることができた。
- 自分たちで少しずつ組み上げていくこと
を楽しんだ。

3 研究の実際 (2) 思いや意図を交流させる手立て

○ふりかえりの活用 ~威風堂々の木を育てる~

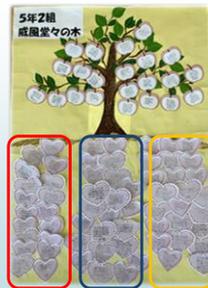
演奏に対する思いを交流させる



3 研究の実際 (2) 思いや意図を交流させる手立て

合奏の感想

練習のヒント



演奏の工夫

- 強弱の工夫
- 速度の工夫
- 音色の工夫

3 研究の実際（2）思いや意図を交流させる手立て



音がそろってきれいだけど、後半ピアノの音が小さくなりすぎるので、同じ音（音量）で弾けたらいいな。



もっときれいにそろえて、ゆっくりするのがいいと思います。

3 研究の実際（2）思いや意図を交流させる手立て

○ふりかえりの活用 ～威風堂々の木を育てる～

演奏に対する思いを交流させる

ふりかえりを活用し、仲間の思いや意図を学級内で共有できるようにする。

思いや意図の集まりを視覚的に捉えることができる。

- ・教室に掲示することで、仲間のもつ思いにふれ、次時の合奏への意欲が向上した。
- ・感想には、鑑賞で着目した「音楽を形作る要素」が含まれていた。合奏を組み立てていくヒントになった。

3 研究の実際（2）思いや意図を交流させる手立て

みんなで合わせたら心が1つになった。とてもきれいだった。



途中から打楽器が入ったときのジャンというのがとってもいい音だった。

4 研究の成果と考察

(1) 主体的に楽曲と向き合うための環境作り

- ・身体表現を重ねていくことで、音に対する感受性が高まり、旋律の流れに自然と身を任せる子どもの姿が見られるようになった。
- ・ICT機器は、音質が良くないなどのデメリットがあるものの、イヤフォンを使ったりくり返し聴くことができたりすることで、集中して音に親しみ味わうことができるようになった。

4 研究の成果と考察

(2) 思いや意図を交流させる手立て

- ・グループ活動において、話し合いが活発になった。
- ・総譜を取り入れ比べることで、曲想の変化の理由に視覚的に気づくことができた。
- ・よりよい合奏するために、音の強弱を考えたり速度の変化をつけたりするなどパート内での話し合いが盛んに行われた。
- ・友だちの意見を読むことで、合奏への意欲が高まった。
- ・鑑賞での気づきが、実際の合奏の工夫に表れていた。

5 今後の課題

- ・演奏を聴いて、意見を伝えることはできるようになってきたが、楽曲を体全体で感受したり味わったりする活動をこれからも続けていく必要がある。
- ・合奏の工夫は話し合われたが、実際の演奏では表現することが難しかった。演奏の技能を高めることで、工夫が演奏の中で生かされるようにしたい。

6 おわりに

再現性のある取り組みや持続可能な手立ては、
今後も継続していきたい。

児童の主体性を尊重する活動をこれからも創造
していく。



最後までご清聴いただき
ありがとうございました。